いのちに対する子どもたちの
まっすぐな「どうして？」と向き合う

神さま、なんで？
病院の子どもたちと過ごす日々

久保のどか 著

「臨床パストラルカウンセラー」として、小児病棟で、こどもホスピスで病をかかえる子どもたちとそのご家族に寄り添うなかで教えられた事々を語る。幼い子どもの「たましいの痛み」と、それを支える神さまのまなざしが心に響いてくる。

久保のどか（くぼ・のどか）
広島県瀬戸内の「のどか」な島で育ち、大学時代に神さまと出会う。大学卒業後、ニュージーランド Bible College of New Zealand にて神学を学び、宣教団体 ISM（International Student Ministry）インターンとして留学生伝道の働きに従事する。2006 年より淀川キリスト教病院チャプレン室で、2020 年より同病院医事部で、小児病棟の子どもたちのパストラルケアに携わる。2012 年に開設された「こどもホスピス」でも、子どもたちのたましいに関わり、現在に至る。JTJ 宣教神学校神学部牧師志願科　卒業臨床パストラル・カウンセラー（PCCAJ 認定）

B6判 138頁 定価1,320円（本体1,200円＋税）
ISBN978-4-264-04424-6 C0016
いのちのことば社　卸コード 09140